



永年会員表彰を受賞して思うこと

除草班 須 藤 俊夫 (一小1班)

シルバー人材センターの除草班に所属して、6年目に入って、現在も仕事をさせて頂いております。

この度、永年会員の表彰をいただき、有難うございました。以前は今と全く違う広告のデザインの職についておりましたが、心機一転、体を使い健康の維持も兼ねて挑戦しようと、除草の仕事を震災の起きる3年前から、ある水処理施設で作業を始めて、その後も東北大学構内でも続けていましたので、気軽に出来そうだなと思いながら、入所しました。でも所変われば作業面や交流など、難しい点もそれなりに有りました。そして、それぞれに人生を進めて来た方々の集まりですので、

個性を尊重しながら行動を共にするのが大切なことでした。

除草の仕事は、確かにきつい部分も多々ありますが、私には好きな作業です。荒れた土地が、作業後には綺麗になって、近隣の方々に「綺麗になったね。さすがだね。」などと褒められると、嬉しくなります。

どんな仕事でもそうでしょうけれど、いつもどうすれば上手に、早く、無駄なく綺麗にできるかを考えながら作業をしています。

「日々勉強！」な～んてね。そして、センターの方々にも色々とお世話になり、優しく接して頂いております。たまに意思疎通の食い違いなどもありますが、良く話し合って、より良い仕事環境になるよう、頑張っていきたいと思っています。

天寿のうた(天寿とは、天から授かった寿命) =富士の高嶺に降る雪も～の歌の節で歌ってください=

14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
限りあるのが命です	百二十は天寿です。	百八歳は茶寿です	百九十九歳は白寿です	九十四歳櫛寿です	九十歳は卒寿です	八十八歳は米寿です	八十四歳は橋寿です	八十八度の手がかかる	雨露雪を防ぎます	八十歳は傘寿です	七十七は喜寿と言	七十歳は古稀と言	六十歳は還暦で
ここまで生きた天寿王	まさに天から頂いた	まさに百歳白寿です	なんとすごいね百歳だ	櫛は大事な髪の毛を	まだ生きるこの国で	國に尽くした尽くされた	幸運の橋見つけましょ	渡りをつける良いお年	そのおかげ様達者です	傘をさしての人生は	生きる喜びかみしめて	さあさ丈夫で過ごしましょ	やつとこれからわが人生
家族世間に支えられ	感謝感謝の毎日よ	百葉の長お茶を飲み	友とお茶飲み話しする	なんとすごいね百歳だ	体に気をつけ暮らしましょ	あなたも私も人生の	初老卒業したばかり	八十八度の手がかかる	われの命も宝物	傘をさしての人生は	病知らずが一番ね	天寿の山もなんのそ	楽しく笑い生きましょ
百二十は天寿です。	まさに天から頂いた	百八歳は茶寿です	まさに長寿の旗頭	百十一は王寿です	まさに百歳だ	九十歳は卒寿です	日本に生まれ幸せよ	九十度の手がかかる	幸運の橋見つけましょ	八十歳は傘寿です	七十七は喜寿と言	七十歳は古稀と言	六十歳は還暦で

俳句題「あやめ」

多賀城のあやめ祭りに妻とふたりで鑑賞に出かけました。
今を盛りと咲き乱れるあやめに感動してしまい、
拙い俳句を詠んでみました。

二小1班 小松幸雄

くんまい
郡舞の あやめと昇る 浄土かな

肩にふれ 華やぐ举措や 妻あやめ

よ ひと みたま
佳き女の 御靈となり あやめかな

花あやめ 生きてこの世の 名残とも

解き放て 思いの枷を 花あやめ

よみがえる 古代むらさき 花あやめ

花あやめ 繁乱のうねり 身を晒し

あやめ園 わが身漂う 波間かな

身をよせて はなれて 惑う あやめかな

あらそ うつせみ め
争いの 絶えなき現世 あやめ愛で

川柳

月見小4班 佐藤勝美

「難しい」

国連よ プーチン止める 役目せよ
コロナとの 別れの予感 感じたい
卒寿まで 生きて年金 元を取れ

「初」

密を避け ひなびた神社に 初詣
初物を 食べて笑って 長生きだ
お喰い初め ごちそう全部 祖母が食べ
プロ入りで 誰もが夢の 初登板

「中心」

孫生まれ 家族写真の 位置変わる
合コンは 美人の周りが 中心に
クラス会 中心変える 化粧映え
コロナ禍で 今が主役だ オミクロン
山形の 名産米だ ど真ん中

「無題」

目と鼻で 春の予感を まず感じ
言わずとも 一合増える 年金日
赤い糸 結び直せず 離婚危機
誕生日 お祝いされぬ 歳となり
フロントが 二度見している 若妻かい?



妻との旅行

玉小1班 水沼淳二

妻と結婚して55年が経ちました。ごくごく平凡な、どちらかと言うと仲の良い部類に入る夫婦だろうと自負しています。その妻がいつの頃からか旅行好きになり振り返ると10本の指では足りない程の海外旅行、加えて国内の名所旧跡や観光地巡りを行って来ました。私が海外に同行したのはインドネシアのバリ島とスイスの山岳トレッキングツアーのみ、あの10数カ国は以前働いていた会社の同僚との仲良しコンビの道中でした。

海外旅行の多くは成田空港発着でしたが、成田まで夜行バスを使いフライトまでの10時間以上の間があっても、なんら苦にせずその時間を有効に使っていたようです。

その妻が「最後にぜひ行きた所、沖縄の石垣島と周辺の島八重山列島巡りです。一緒に行って欲しい」と私に懇願してきました。数年前仲良しコンビで北海道の利尻島、礼文島まで足を延ばし、残るは沖縄の石垣島と心に決めていたようです。石垣島については、本友の会総務の畠山さんの影響もありました。畠山さんが現役時代2年間の勤務生活を送った所です。白砂青松の地で青い海に白い雲が浮かぶ、まさに汚れのない景勝地であることを機会あるごとに聞かされていました。その願いが実現しかかったのが令和2年。ある旅行会社の企画で3月15日の出発でした。旅行代金も納めいざ出発と言う時、あの忌まわしい新型コロナウイルスの感染拡大の影響で旅行そのものが中止されました。妻の気持ちがいかばかりか私に

も分かる気がしました。

そして3年後、6月の中旬に念願を叶えたのです。喜寿を過ぎ体力も気力も衰え加減の妻が、一人での参加に不安を感じたのでしょうか。私も重い腰を上げて同行しました。天候には必ずしも恵まれた状態ではありませんでしたが、北海道や山形県からの参加者との交流は旅を明るいものにし、妻は待ち望んだ観光や風景に満足を示しました。亜熱帯の自然がそのまま観光になるという八重山地方。西表島のマングローブ群生を舟で見てその範囲の大きさに驚き、更にそのものが植物園という由布島へ水牛車で渡ります。御者が三線を奏でて歌うご当地の民謡、安里屋ユンタにはどこか哀調が感じられ牛歩がリズムを作っているかの如きです。

人口300人程の竹富島は沖縄の原風景が残っていると言われ、ここでも水牛車で街を巡りました。石垣島の透明度抜群の海の底をグラスボードで探索、サンゴ礁群を亀が泳ぎ色鮮やかな魚類を発見して歓声をあげました。

妻はこの旅行を最後と位置付けて参加しました。華美な観光地を嫌い、自然が織りなす風景に魅せられた旅に一応終止符を打ったようです。

私たちには添える間が短くなっています。最後の本当に最後の旅行を迎える年齢になりました。旅行会社に予約を入れる訳にはいきません。妻と一緒にすることもできません。しかも帰途のない旅行です。それが何時なのか神のみぞ知る、・・出来る限りの長い月日を一緒に生活したいと念じています。



マングローブ群生



82歳の同級会:存命率67%

畠山 孝繁(玉小1班)

去る6月25日、82歳の同級会に参加しました。参加者は25名。丸々3年ぶりに級友と再会し喜びを分かち合いました。返りみれば、私たちは終戦から間もない昭和23年4月に小学校に入学。121名。私たちが生まれた昭和16年は日本軍がハワイへ真珠湾攻撃し第二次世界大戦が勃発した年です。当時の記憶は定かではありませんが、私の兄3人は徴兵されました。幸い無事帰還出来ましたが、近所には沢山の戦死者がおります。長兄は焼夷弾で目を負傷し仙台陸軍病院に入院した経歴を持ちます。兄の目は完治せず死ぬまで苦労したようです。

昭和23年と言えば食べ物も着る物も履くものもなく誰もかれもが苦労した時代でした。ピカピカの小学一年生とはいってもランドセルは兄が戦地から持ち帰った皮で造ってくれたもの。学生帽は買ってもらった記憶がありますが、ランドセルの中には近所の上級生から譲られた古い教科書です。お金持ちはなれば買えないので、隣の席の友達の新しい教科書がとてもうらやましく思いました。ノートや鉛筆もろくなものはありません。石板(せきばん)と専用チョーク。今は小学一年生からタブレットなるものを使用しているようですが、私たちは石板にチョークで書いては消し、書いては消して字を覚えました。鉛筆は削るとすぐに折れる粗悪品。ノートや紙は現代のような白紙ではなく、紙質も悪くザラザラしていたからでしょうかザラ紙と呼ばれ、私の記憶ではB3判1枚50銭です。現代はA3判1枚1円50銭ぐらいでしたが今の方が安い感じ。紙は本当に貴重な物でした。ですから書道の練習は新聞紙を使い、書いた墨が乾いたらその上にまた書くといった状態で最後の1枚清書するときだけ習字紙

を使います。

履き物はといえば、わら草履です。雨のときは素足で家を出て学校に着いたら足洗い場で足を洗い、濡れた足でヒタヒタ歩いていました。登校するときはわら草履を履いて出たけど下校時に雨が降ったときは、その草履を懐に入れて2キロほどの砂利道を素足で帰っていました。わら草履を懐に入れても木下藤吉郎のように出世できませんでした。それにしても砂利道をよく素足で歩いたもんだなあと思っています。

長靴はありません。貧富の差もありましたが、物そのものがなかったのです。当時は配給制度があり長靴もクラスに5足程度配給され、それを希望者でくじ引きをしたりじゃんけんしたりして決めていました。服などもくじ引きでしたので、なかなか手にはいりませんでした。食べ物もなかった。ですから食べられるものは何でも食べました。あけび・栗・山ズドウ・野いちご・青梅・すもも・すぐり・ちやごみ・柿・生のサツマイモ。田んぼの畦道に生えていた「スカンボ」は酸っぱいけどとってもおいしい食べ物でした。

米も不足していたので麦飯に海藻類、大豆、かぼちゃ・小豆・大根葉・芋類等々をかて(糧)と称して混ぜて炊いていました。干した大根の葉っぱのかて(糧)ご飯だけはその匂いがきつく食べるのに一苦労しました。

艱難辛苦、人生いろいろあり中学卒業時は121名。転出生あり9年間で教室を共に学んだ同級生は127名。死亡が確認された同級生は42名となっていますので、生存率67%です。

この歳にして同級会に参加でき、シルバー人材センター会員として健康で働けることは、この上ない幸せを実感しています。

シルバーカフェをリニューアルオープンしました！皆さん来てね！

新型コロナウィルス感染症禍により丸3年間お休みしておりましたが、ようやく収束の兆しが見えてきたことから、意欲あふれる8名のスタッフにより、去る7月5日に再開しました。開店早々から沢山のお客さんが詰めかけ、上々のスタートでした。出かけた際に立ち寄り、ホット一息ついてはいかがでしょうか！

営業日 毎週水曜日午前9時30分～午前11時30分

(令和6年1月3日はおやすみします。)



重ね重ねの募集 「シルバーお助けゴーゴー隊」

【シルバーお助けゴーゴー隊出動条件】

- ・作業場所 塩釜市内
- ・ワンコイン500円 概ね1作業30分以内
- ・高所での作業や危険な作業でないこと
- ・シルバー会員が近所にいること
- ・基本的にひとりで出来る作業
複数人数で行った場合 人数×500円
- ・材料費はお客様負担

【ご利用の流れ】

- ・電話でお手伝いの内容を依頼する
- ・ご依頼されたお手伝いに適した会員を探す
- ・お手伝いする会員からご依頼者に電話する
(依頼内容の確認や日時等)
- ・お手伝い完了後、500円を会員に渡す
(領収書を渡す)
- ・できる限りお釣りがないようご用意

【お手伝い内容】

- ・可燃物のゴミ出し
- ・花木の水やり
- ・電球の交換
- ・簡単な裁縫
- ・家具等の移動
- ・洗濯、布団干し
- ・精米 等々

【ご利用期間】：月曜～金曜(午前8時30分)～午後5時まで 【問合せ】：塩釜市シルバー人材センター



シルバー友の会だより

感染予防対策を充分にして秋の旅行会を！！

友の会会長 小松幸雄（二小1班）

梅雨も明け、暑い毎日が続いておりますが、塩釜市シルバー人材センター友の会会員の皆様におかれましてはご健勝のこととご推察申し上げます。平素より会員の皆様には、友の会の事業計画にご理解ご協力を頂きまして厚く御礼申し上げます。

6月21日（水）にマリンゲート塩釜3階のマリンホールで行われた令和5年度友の会の定時総会も、出席者の皆様のご理解の下、スムーズに審議承認されましたこと、重ねて御礼申し上げます。今年度の事業計画案に提示されましたそれぞれの事案につきましては、私ども友の会の役員で協議を重ね、出来るだけ多くの方が参加できるよう、企画・立案しながら取り組んでいきたいと思っておりますので、宜しくご参加ご協力のほどお願い申し上げます。また7月17日（月）海の日の第76回塩竈みなと祭り陸上パレード「よしこの塩竈踊り」の催行に際しましては、延べ5回に及ぶ練習日にも沢山の方が参加してくださいり、本番当日は厳しい暑さの中裏方を含め総勢25名の方の参加を戴き、惜しくも今年も賞はとれませんでしたが、塩竈市民の皆さんに高齢者の元気で発刺とした踊りを見せることが出来たことは、賞にも勝る素晴らしいことだと思っております。

今年度の塩釜市シルバー人材センターの定時総会には、塩竈市長が初めて来賓として出席して下さり、その祝辞の挨拶で、現在塩竈市民の65歳以上の方の人口割合は34.6%に及んでいると言われました。このような多くの高齢者がシルバー人材センター等で生き甲斐をもって元気に仕事をし、楽しく暮らせる地域社会を発展させてゆく事も市の行政の一環であると言われました。

現在宮城県内のシルバー人材センターで、「友の会」があるのは仙台市と塩竈市だけであると聞いております。「共働・共助」の理念のシルバー人材センターですが、仕事をするだけではなく「友の会」の会員同士の情報交換やサークル活動などで親睦を図ることも、高齢者の楽しみや健康の為の大切な要素と思われ、多少なりとも心身のフレイル（虚弱状態）予防と健康寿命の延長になるのではと、友の会の役員一同の共通認識として活動を続けているところであります。

新型コロナウイルス感染症も、インフルエンザと同じ「五類」に引き下げられ、マスク着用あるいはマスクなしで、様々なイベントが行われるようになりました。友の会として今年度こそは、コロナウイルス感染予防対策を徹底した上で、3年ぶりに秋の一泊旅行を催行するべく、時期や旅行先等を検討中でございます。旅行に関しまして会員の皆様からご要望等がありましたらシルバー人材センター事務局までご連絡ください。また「日帰り旅行」なども同様に考えております。

塩竈市長も祝辞の挨拶の中で「新型コロナウイルス感染症は終息したわけではなく、まだまだ油断ならない」と言っておりました。ウイルスの変異株もBA2からXBBに変異され、感染者数は全国的に下げ止まりとなっているようです。しかし地域によっては感染者数が増加傾向にあるとも言われております。友の会会員の皆様におかれましては、油断することなくマスクの着用や手の消毒などを徹底して感染防止に留意してください。また「安全は全てに優先する」スローガンを忘ることなく就業中の事故防止対策を万全にしてください。

第76回 塩釜みなと祭陸上パレード「よしこの鹽竈おどり」

私たち塩釜市シルバー人材センターは、60歳以上の元気な会員が若者にも負けないシルバーパワーを發揮し、仕事に趣味にといろいろな分野で日夜活動しております。

普段、おじいちゃんやおばあちゃんと呼ばれていても、今日は粋な法被姿で20歳以上も若返って元気に踊っております。見学している皆さんで60歳以上の方がいたら、来年はシルバーセンターの仲間となり、粋な法被を着て一緒に踊りましょう。

シルバーパワーいやゴールドパワーあふれる熟年男女に盛大な応援をお願いします。(参加団体紹介放送より)



